

## 令和5年度第1回図書館協議会

日時：令和5年9月27日（水） 午後3時～午後4時まで

会場：阿賀野市立図書館 視聴覚室

出席者：

- ・（委員長）長谷川小百合
- ・（委員）寺井昌人、新保憲子、伊藤道秋、高沢芳子、中島優子
- ・（図書館司書）曾我由香里、神田純子
  
- ・ 教育長 神田武司
- ・（事務局）生涯学習課長 塚野敏之、生涯学習課長補佐 山崎美佳、  
図書館係長 岩城美千代、主事 石田愛香音
- ・（傍聴者）1人

議題：

- ・第二次阿賀野市子ども読書推進計画策定について  
概要説明  
今後のスケジュール  
その他

### ○生涯学習課長

これより開会いたします。

本日はお忙しい中ご参加いただきましてありがとうございます。ただいまから阿賀野市立図書館協議会を開催いたします。

本日の会議は4時30分を目途に開催をしていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

なおA委員、それからB委員から、本日の会議を欠席する旨の連絡を頂戴しておりますので、ご報告させていただきます。

はじめにお願いがございます。今回、議事録作成のためにこの会議を録音させていただきますので、よろしくお願いいたします。また機械により議事録が作成されますので、発言につきましては、相互に重ならないように、ご協力をお願いいたします。またこの会議は阿賀野市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条に該当する協議会となっております。公開の方法は傍聴による公開といたしますが、現在、傍聴者の方はお1人でございます。また議事録につきましてもこれにより公開させていただきます。阿賀野市のホームページ等で掲載させていただきますのでよろしくお願いいたします。

それでは初めに、教育長からご挨拶をお願いいたします。

### ○教育長

皆さんこんにちは。ようやく涼しくなって少しほっとしています。コロナの感染の方も、一時期は少し多くなりましたが、インフルエンザの方も落ち着いているようで、大変安心し、喜ばしいことだと思っております。

本日はご多用のところ、令和5年度第1回の図書館協議会にお集まりいただきまして、

誠にありがとうございます。

図書館協議会は、図書館法第14条に基づく協議会で、図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館方針につき、館長に対して意見を述べる機関でございます。

本日の議題は、第二次阿賀野市子ども読書活動推進計画の策定についてでございます。阿賀野市子ども読書活動推進計画は、5年計画として、平成25年3月に策定されました。本来であれば、平成30年に第二次計画をスタートすべきところでしたが、上位計画であります県の子ども読書活動推進計画が未策定であったため、当市計画の策定期間を検討して参りました。現在は新潟県子ども読書活動推進計画が令和2年3月に、それから国の第5次基本計画が令和5年3月ですが、策定済みとなっております。

阿賀野市につきましては、第一次計画を基本としつつ数値目標を検証し、第二次阿賀野市子ども読書活動推進計画の策定に取り組み、子どもたちの豊かな心の育成と健やかな成長を目指し、読書環境の整備に努めていきたいと考えております。

忌憚のないご意見をお聞かせくださいますよう、お願いを申し上げて、簡単ではございますが、私の挨拶にさせていただきます。本日はよろしくお願いたします。

### ○生涯学習課長

ありがとうございました。それでは議題に入ります前に、この度私ども令和5年度の人事異動によりこの4月から異動して参りました。初めての方もいらっしゃると思いますので自己紹介をさせていただきますと思います。

(事務局紹介)

### ○生涯学習課長

また、今回の議題にあります、第二次阿賀野市子ども読書活動推進計画につきまして今後計画策定に関わる阿賀野市図書館司書の2人からも、自己紹介をさせていただきます。

(図書館司書紹介)

### ○生涯学習課長

それでは、阿賀野市市立図書館協議会規則の第二条第3項の規定に基づきまして、委員長に議長をお願いし、議事の進行についても併せてお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

### ○委員長

それでは会議次第に基づきまして議題に移ります。議題を事務局から説明をお願いします。

(第二次阿賀野市子ども読書活動推進計画策定について概要説明)

### ○委員長

ありがとうございました。第二次計画の策定について、この協議会の委員で素案の内容を確認し、意見を出しながら進めていきたいとの説明がありました。ただいまの議題について、質疑、意見等がございますでしょうか。ありましたら、挙手にてお願いたします。

す。

**○委員**

今、阿賀野市内の小中学校はタブレットを使用しているのですか。

**○事務局**

使用しております。

**○教育長**

小学校、中学校、1人1台タブレットを持っていて、アンケート調査によりますと、この学校も毎日1日1回は触れているという結果であります。

**○委員**

タブレットでどのようなことをするのでしょうか。そのタブレットを使って本が読めるのかどうかお聞きします。

子どもがタブレットを持っていて、本や漫画などを検索して読むことはできますか。

**○委員**

そういうコンテンツにアクセスできれば読むことはできます。他の学校の実態がわかりませんが、読んでいる様子は当校ではないです。教科書は入っています。

**○委員**

読書推進をするにあたって、紙媒体だけなのか、電子媒体でも見られるのかと思って聞いてみました。

**○委員長**

勝手に子どもたちが見ることはできるのですか。

**○委員**

青空文庫というものではフリーアクセスができて読めたかなと思うのですが、実際まだそれをやっている学校は少ない、やってないのではないかと思います。

**○委員長**

その他にご意見はございませんでしょうか。

**○教育長**

私がおもっているデータを紹介していきたいと思います。阿賀野市の6年生に行った全国学力学習状況調査の結果です。1日平均どれくらいの時間読書しますかという調査です。

「全くしない」の場合、小学校6年生は、全国が24%に対して、阿賀野市は26%。中学校3年生は、全国が36%に対して、阿賀野市が42%。

ちなみに「毎日ほぼ1時間以上します」というのが、小学校6年生は、全国が18%で、阿賀野市は13%。中学3年生は、全国が13%で、阿賀野市は11%という状況であります。

全国と全く違うという状況はない。ほぼ同じだと思います。

それから、「新聞を読んでいますか」については、「ほとんどまたは全く読んでない」が、小学校6年生は、全国が73%、阿賀野市も73%。中学校3年生は、全国が79%、阿賀野市は82%。

「1週間に1回から3回程度を読んでいる」、または「毎日読んでいる」というのが、小学校6年生は、全国が12%、阿賀野市が9%。中学校3年生は、全国が8%で、阿賀野市が6%。

新聞をとってない家庭が多くなってきて、新聞はもう紙で読むのではなくなってきたのかなど。

## ○委員

新潟日報の販売店の社長の話だと、家を一軒構えても新聞は取らないので、新聞の販売数が減っているそうです。

## ○教育長

インターネットの方が情報が早いですね。

あとはこれも全国でほぼ同じなのですが、「読書は好きですか」という質問に、小学校6年生では、「当てはまる」33%、「当てはまらない」13%。中学校も同じような傾向で、中学校3年生、「当てはまる」30%、「当てはまらない」17%ということで、読者の好き嫌いは小中学校であまり差はない。

読む時間があるかどうかとか、借りるかどうかというあたりが問題なのかというふうに思います。

## ○委員

ディスレクシアという、文字が読めないけれど耳から入る情報で覚えていくというような人がいるそうです。この計画は、普通に字を読んで思考し読書も好きな人が考えていると思いますが、学校の子どもたちは、昔の私達とは違い、いろいろなことが解明されるなかで、ディスレクシアとか、こどもたちを見ていくと細かい違いがあるのに、読書もいつまでも紙媒体なのかと思います。それから、刀剣女子とか言われていますが、入り口が全部漫画や舞台、コミックからなのですよ。そういうものから入って、昔とは情報量も本当に違っているのですよね。情報のコンテンツも全然違うし。

私たちは昔のままの考えで本を読んでもらおうと思っていますが、今の子どもたちにとって本当は違うんじゃないかと思っています。

「境界知能の子どもたち」という本がありまして、それはIQ70とか80の子どもたちは、学校でちゃんとケアされるらしいけれど、80をちょっと超えたぐらいの人たちは、ケアされない。黙って座っていて話は聞いていれば大体わかるけれど、本をきちんと読んで理解するとか、1冊丸ごと読んでみるとかそういう根気がない。昔はそこまで目立たなかったとは思いますが、子どもそのものが変わってきてるのに、読書は今までと同じことを押し付けるのはいかがなものかと思いました。

学校の先生から見ると、子どもたちのそんな変化はあまり感じられないのか、その辺の印象をお聞きしたいです。

## ○委員

実は当校でその境界線の知能に関して、この前WISC検査を受けた子がいて、文字を読むことに困難をもっていることがわかったので、外部の方からアドバイスをいただきました。

た。やはりその資料などは基本的に紙なので、それを何とか読めるようにするために教えていただいたのは、タブレットで写真を撮って画面をなぞると読み上げてくれる機能があるんだそうです。それでやってみようと、その子に合わせた指導をいただいて今やっているとところです。

## ○委員

もう一つ言うと縦で慣れていると、横の文字が読めないというの也有ります。だから国語は点数が出るけど、算数の問題は点数が出ないことが起きやすい。文字を読むっていうのはすごく難しいらしく、音読しなさいって言えば音読するが、内容を理解するというのは難しくて、内容がわからないと読書なんかもっとできないという話になりますよね。

普通の文章も読めない人、紙媒体の情報にタッチできない人等、そういう大人が結構いるそうです。

私は紙が好きで本が好きで読みますけど、そういう人たちが集まってこのような話をしていますが、紙が読めないという人にもう少し寄っていった方がいいのではないかという思いもあります。私は紙の方が好きですが。

だから本当にアンケートで子どもたちの実態を見ることは大事だと思います。漫画だったら、絵を追って行ってストーリーがわかる。だけど、文字にするとわからない。じゃあ面白くないよねっていうこともあるので、真面目な本以外にも、歴史などが漫画になっていたら読みますかと聞いてみると、ちょっと反応が違うかもしれないと思います。みんな自分と同じだと思っているけれど、実は少しずつ違う。それは外見だけじゃなくて頭の中も違うから、読書を勧めても読めない人もいるし、何度タブレットを使ってもすぐ忘れる私もある。そういう人に、一律に読書しましょうというのが、果たしてそれで読むようになるのか。子どもたちをよく見るのが重要だと思います。

## ○教育長

いろんな子どもがいるということが、研究が進んでわかってきたんですね。昔は十把一絡げで、なんか落ち着きないなで済ませたのが、今研究が進んでわかってきて、どういう手立てをすれば、この子は力を発揮できるかという研究も進んできている。その中でタブレットが配られていて、先生方も導入から3年ぐらいいしか経っていませんので、今一生懸命勉強中です。

個別最適化、つまり自分で一つ持っているから、イヤホンして声出して読んでもらってもいいし、でっかい字に拡大して読んでもいいし、読むのが早い子は次々と読むでもいいし、個別で最適な状況下における可能性は非常に出てきたと。あと、使う人の腕前の問題と、準備性の問題ですね。

今、小中学校で試し活動に英語のデジタル教科書配られています。一部の学校には試験的に理科、算数が配られています。なかなか使うのに大変だと言っています。

## ○委員

便利な道具を便利に使うためには、その事前の指導が大変ですよ。文字を読めないお子さんにタブレットやパソコンを与えれば学習できるんじゃないかと言いますが、その使い方を指導しなければ1人ではできないですよ。

誰かが指導してそばで褒めてくれるから理解できて、次からやれるようになるかもしれないですけど、本当に与えただけではできません。その辺が大変ですね。

## ○教育長

完璧というのはなかなかできないけど、できることはチャレンジしていく、その子が興味を持つこと、その子が喜ぶことを一緒に見つけていくというような感覚でしていますが、そんな簡単にわかるものじゃない。一緒に見つけていく感覚で毎日子どもと過ごしていくという研究的な態度が必要になってくると思います。

## ○生涯学習課長補佐

今ほどのお話に関連したことですけれども、先ほどの事務局の説明の中での第5次計画に関する基本方針の触りを説明させていただきました。その中で、「デジタル社会に対応した読書環境の整備」というところと、「多様な子どもたちの読書機会の確保」というところで、今ほどのお話に非常に通じるところがあるのかなと思っております。

この国の第5次計画が、令和5年の3月に出来上がったばかりの計画で、最新なものが盛り込まれていると感じています。当市の第一次計画が策定されたのが、平成24年度、平成25年の3月に完成しましたので、ちょうど10年前ですね。私もちょっと策定に関わらせていただいたのですが、10年経って非常に子どもたちを取り巻く環境が変わっているのを感じているところです。紙媒体を押し付けたいということでは決してありませんので、子どもたちが活字を読んで、頭の中で理解するというのは本当に大変な作業だと思うのですが、読書する喜びや楽しさを、小さいうちから感じていただきたいという思いがありまして、当市も遅ればせながらこの二次計画の策定に取り組んでいこうと考えているところです。

当市でどこまでできるのかという部分はあるのですが、国の最新の5次計画を念頭に置きながら、当市としてどのような取り組みができるのかを探っていきたいと思っております。一次計画策定のときは、先ほどもお話しました通り部会を三つ立ち上げて、時間と労力をかけて策定しました。そこに最新のものを加えたり、今の子どもたちの状況を加えたりしながら、二次計画を考えていきたいと思っておりますので、委員の皆様には本当にご面倒おかけいたしますが、どうぞよろしく願いいたします。

## ○教育長

私も孫を見ていて思うのですが、言語感覚は本当に小さい時が大事なんだなあと思います。そこで何か言葉の感覚を掴むと、後はスーッと入っていくと見ていてそんな感じがします。

やはり親と子の関わり方、文字を通しての関わり方という点からいくと、この市の図書館は、絵本、幼児の読書活動に力を入れているのは、うなずけるなと思います。そこから発展して、それをどう小学校で受けて、どう中学校で発展させていくか、連携を大事に、時に興味関心を持たせたりして力をつけていく。連携も大切にしたい計画に持っていけたらいいんじゃないかと思っております。以上です。

## ○事務局

先ほど課長補佐からも話がありましたとおり、国の基本方針で、「デジタル社会に対応した読書環境の整備」とありまして、やはり第一次計画から数年経過しておりますので、社会環境が大きく変わってきているということから、今回の計画では、今現在の子どもの状況をよく把握した上で、阿賀野市の子どもたちに沿った形のものを計画していきたいと考えております。

せっかく皆様にお集まりいただきましたので、皆様のそれぞれのお立場から、今現在の

読書の現状に対するご意見等をお聞かせ願えればと思うのですが、いかがでしょうか。ご意見を皆様からいただきたいと思います。

### ○委員

国の方針の中に「デジタル社会に対応した環境の整備」とあり、そういった社会を否定するわけにはいきませんが、ただ生まれたときからそういう社会に入り込むのはいいとは思えないのですよね。

だからデジタル社会に至るまでの幼児教育に阿賀野市として力点を置くという内容かなと考えました。

デジタル社会やタブレット等を否定するわけではなく、そういう社会を認めながらも、基本的な文字や言語は、この計画の中でも非常に重要であると感じています。

### ○委員

このスケジュールの中で、学校図書館主任会議があります。この主任会議の後にアンケートを取るということですが、ぜひアンケートの実態を踏まえた取り組みの議論がどこかでできるといいと思います。このスケジュールでは、これで学校関係の人が関わるのが終わってしまうような感じがするので、令和6年のおそらく6月ぐらいにまた学校図書館主任会議があるので、またそこで話ができるといいかなと思いました。

その他ですが、学校現場にいると、司書免許を持つてる教員は学校に1名ずつ必ずいますが、学校図書館に常駐できない、学級担任でありますので、やはりその読み聞かせ週間とかそういうことはできるのですが、常に子どもたちと本の間に入るような人がいないというのが現状です。

新潟市では会計年度の方が来校したり、他の市町村だと週に1回ぐらい学校を回ってくるようなことがあって、人と人、子どもと本をつなぐ人がいるといいなと思っています。以上です。

### ○委員長

中学校は、司書はいるのでしょうか。

### ○図書館司書

水原中学校は、私の方で市民図書室と一緒に運営しているという形です。基本的には中学校の図書委員会に出席をしています。あとはお昼休みに中学校の図書室が開きますので、水原中学校の図書室の本もバーコードをつけて、貸出もパソコンでできるようになっています。先生方の負担になるので、こちらで本の登録や選書をしています。貸出は図書委員会の中学生がやりますので、そのお手伝いをさせていただいております。

### ○事務局

水原中学校はそういう形で運営させていただいておりますが、他の3校については、そういった常駐の人間がおりません。

### ○委員長

小学校は全くいませんか。

### ○事務局

今言ったような現状です。

### ○委員長

新潟市では学校に司書がいるのに、阿賀野市はいないということで、以前市へ投書しました。これから巡回でもいいのですが、配置してくださることを期待したいと思います。

### ○委員

京ヶ瀬幼稚園は現在0歳から6歳までのお子さんを預かっており、毎日最低2冊絵本の読み聞かせを職員が子どもたちにしています。

また、3歳以上児は、毎週木曜日に絵本の貸出をしています。おうちの方にもぜひ読んでもらいたい、お母さんお父さんと一緒に読んでもらいたいということでこの貸出を実施しています。

やはり登降園の様子を見ていると、すぐお母さんの携帯を使用してスマホでユーチューブ等を見せて子どもたちの子守させたりして、子どもたちはそこに集中していられるという、今の時代ならではの状況が園でも多々見られます。やはり絵本の読み聞かせをすることによって、将来子どもたちの学習をする力に繋がることを伝えながら、現在、保護者に啓発しているところです。

また10月にこちらの図書館司書の方から、幼稚園のお誕生会で絵本の読み聞かせをお願いして来ていただく予定にしており、そのように連携しながら1年に1回お願いしているところです。

### ○委員

基本的な計画はよく納得できます。しかし今の子どもたちが読書をしないという現状にどう対応するかというところで、一步踏み出したアイデアをもっと考えてもいいのではと個人的に思いました。

うちの孫の担当が、毎日「今日の人」という、いろいろな人のことを紹介してくれています。今度の3連休は、子どもたちが自分で「今日の人」を書いてくるということで、政治の人や、芸能人や、いろんな分野の「今日の人」の文章を作るには、やはり調べないと駄目なので、図書館に足を運んで、自分から進んで調べて、きっと心が動かされたものがあつたと思います。

図書館によく通う子は本が好きな子だと思いますが、図書館に足も向かない子たちにはやはり心を動かす何かがあるとちょっとしたきっかけになるのではと思います。

図書館のおはなし会がありますが、そこからもう一步突っ込んで、例えばですが「今日の人」の紹介文を募集するチラシを子どもたちに配り、図書館に届けてもらって、いろいろな人の「今日の人」を貼っていくとかも面白いのではと思っていました。

その他図書館新聞とか、自分の好きな本の紹介とか、それぞれが壁面に貼って、好きに書き込んでいけるような環境があつても面白いのではと考えていました。

### ○委員

教育長が先ほど阿賀野市の読書する子の割合をおっしゃっていましたが、その割合をどう思われましたか。

### ○委員

新聞はもう少し読む子どもの割合は高いかもしれない。市の予算でそれぞれの学校に新



聞が届くようになったので、当校で言うと、玄関の脇のところに朝必ず見だしが目に入るように新聞を置いていて、興味ある子はちらちらと読んでいくので、そこは少し割合が上がってくるんじゃないかとは思っていますね。

### ○委員長

そのほかにはよろしいですか。それでは事務局からも何か説明ございますか。

### ○生涯学習課長補佐

先ほど子供の頃から言語、言葉に触れるのが大変大切であるというお話がありました。昔は家庭の中に口伝えの昔話やわらべ歌など、そういった口承の文化があって、そういうものが幼いころから体にしみついていました。私たちも、昔のおばあちゃんたちにはいきませんが、小さい赤ちゃんとか若いお母さんたちにわらべ歌や、赤ちゃん絵本や幼い子向けのお話の楽しさを伝えたいという思いで活動していますが、日常的に生活の中にそういったものがあつた時代とは今は明らかに違うと思います。

以前に聞いた講演会の講師の方が、「私は本がすごく好きで、小さい頃から本をたくさん読んでいたけれど、今の子どもたちと同じように周りに楽しいものがたくさんある環境にいたら、私も本を読んだかわからない。それでもやっぱり子どもたちには本を勧めたい」とおっしゃっていました。

C委員がおっしゃるように時代も変わりますし、子どもたちも保護者も変わっていくとは思いますが、それでも何らかの形で言葉に触れてもらいたいと思いますので、一次計画で盛り込んだ内容を、うまく昇華させて二次計画につなげていきたいと思っています。

### ○委員長

私からの感想ですが、私の子どもは今社会人ですが、それなりの企業に勤めていてそれなりの大学を出ていますが、小さいときから読書はそんなにしてきませんでした。

LINEでのやりとりで「昨日お金を振り込んだか」という話をしているとき、子どもがひらがなで「きょうふりこんだ」と返してきたのですが、私は「漢字に変換すると『恐怖離婚だ』だ」と思ってしまいました。漢字にすれば言語はいろいろな意味が変わってきます。

そういうことも今の子は発想ができないのか、私が漢字で「恐怖離婚だ」と送り返しても子どもは何を言っているのかわからないようで、「お母さん離婚するのか」と返信してきたんです。

日本語は本当に難しいと思いましたし、改めて今日みなさんのお話を聞いて、子どもの頃から日本語を理解する場があると大きくなってからも困らないのではと思いました。

何か笑い話になってしまいましたが、私の感想でした。

### ○生涯学習課長

大変ありがとうございました。今日の皆様からのご意見などを参考にし、また今後、国や県の計画なども参考にし、先ほどからも話がありましたが、アンケート調査が重要になってくるのかなと私自身考えています。特に高校生からどんな意見が出てくるのか、興味深いところもあります。より多く回答いただければと思っております。それらを反映した素案を第2回の図書館協議会までに皆様の方に提示したいと考えてございます。お手数をおかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

最後に次回の会議の日程につきましては令和6年3月ごろ開催を予定しております。また改めまして事務局の方から連絡させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い

たします。

それでは以上で令和5年度第1回阿賀野市市立図書館協議会を閉会いたします。  
本日はありがとうございました。お気をつけてお帰りください。